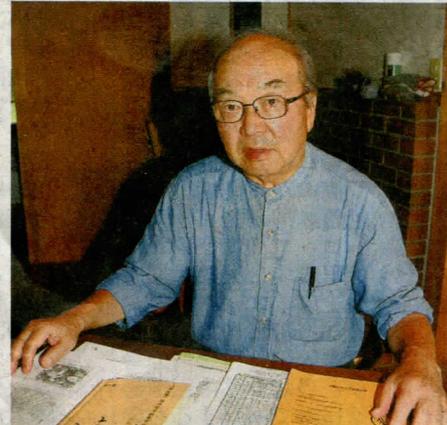


# 日本被団協にノーベル平和賞

## 核兵器廃絶訴え、世界に

藤森さん(茅野)が元事務局次長



日本原水爆被害者団体協議会事務局次長として核兵器廃絶に向けた活動に尽力してきた藤森俊希さん＝2020年8月

ノルウエー・ノーベル賞委員会は11日、2024年のノーベル平和賞を日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)に授与すると発表した。日本人の平和賞受賞は1974年の故佐藤栄作元首相以来50年ぶり、団体では初。核兵器廃絶を求めて56年に結成されて以来、70年近くにわたり国内外で被爆体験を積極的に発

日本原水爆被害者団体協議会 各地にある被爆者団体の協議会で、被爆者唯一の全国組織。米軍の水爆実験による第五福竜丸被ばくを契機に、1956年に結成された。核兵器廃絶と原爆被害に対する国家賠償を柱に、国内外で活動している。国連の軍縮会議などに被爆者を派遣し、故山口仙二代表委員の「ノーマアヒバクシャ」の演説は世界的に有名になった。原爆医療法や原爆特別措置法制定に尽力。2016年には故坪井直代表委員が広島を訪問した米オバマ大統領(当時)と面会した。

信したことが評価された。授賞理由として、「核兵器のない世界を達成するための努力」と、「核兵器が一度と使用されてはならないことを証言を通じて示した」ことを挙げた。

被害の国家補償も求め、被爆者援護法や同法の施行に伴い廃止された原爆医療法、原爆特別措置法の制定などに尽力した。こうした活動が評価され、85年以降何度も平和賞の候補に挙げられた。国際原子力機関(IAEA)などが受賞した05年には、ノーベル賞委員会の委員長が授賞式の演説で、被団協の活動を評価する異例のコメントをした。

非核・反核運動を巡っては、「核兵器なき世界」を指すとした「プラハ演説」を行ったオバマ米大統領が09年に、国際的なNGOの連合体「核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)」が17年にそれぞれ受賞している。

授賞式は12月10日、ノルウエーの首都オスロで行われる。

### 被爆体験を伝える

藤森さん尽力

日本被団協は米国の水爆実験による第五福竜丸被ばくを契機に56年結成。国際活動に力を入れ、核保有国をはじめとする各国に代表団を派遣して被爆体験を伝えるとともに、国連軍縮特別総会などにも参加。核兵器の残虐さを訴え、17年の核兵器禁止条約の採択にも貢献した。

被爆者援護の充実や、原爆

茅野市湖東の藤森俊希さんは、2011年から日本被団協の事務局次長として活動。現在は退任しているが、1歳の時に広島市で被爆した経験を踏まえ、核兵器廃絶に向けた活動に尽力。中学や高校などで被爆体験を伝えている。